

【喫茶★りんり】通信

News letter 第8号 2003年7月8日発行

【喫茶 りんり】のサボテンに花が咲きました。



上の写真は、今年4月に本学看護学科成人・老年看護学講座助手に着任された武ユカリ先生が、【喫茶 りんり】のために、日南のサボテン・ハーブ園で買ってきた鉢植えサボテンです。武先生、どうもありがとうございました。[でも花が咲いたのは5月末だったので、掲載がずいぶん遅くなってしまって、すみませんm(_ _)m]

みなさま、大変ご無沙汰しております。第7号を4月に発行して以来、3ヶ月ぶりの発行となってしまいました。お陰さまで、昨年9月9日「救急の日」にOPENした【喫茶 りんり】も、【ベッドサイド・カフェ】の出張オープンだけでなく、第7号で紹介させて頂きましたように、学内的にも全国初の医学科6年次の「臨床倫理クリニカル・クラークシップ」も担当させて頂くようになり、嬉しい悲鳴をあげてさせて頂いております(^_^; また、電子メールやお電話にての「倫理相談(エシックス・コンサルテーション)」のご依頼も、数多く頂戴するようになり、その度に、臨床の現場で働いておられる医療従事者の皆さんが、日々、いかに困難な事例に直面されておられるのかを、あらためて実感している、宮崎2年目の夏です。

臨床倫理クリクラ学生さん & 看護師さん ECC コラボレーション 実現！！

第7号でも紹介させて頂いた、今年度4月1日より新しく始まった医学科6年生の臨床倫理クリニカル・クラークシップですが、そのプログラムの中で中心をなしているECC(エシックス・ケース・カンファレンス)を、**医学生さんだけでなく、現場の看護師さんと** **いっしょに実施**することが、以下3箇所の協力のお陰で実現することができました(^ ^) /

潤和会記念病院・国立宮崎病院(川南) 宮崎県内准看護学校専任教員研修での 【ベッドサイド・カフェ】ECCとの連携

医学科6年生の「哲学・倫理学〔臨床倫理〕」クラークシップは、2週間単位で最大8名までの学生さんが参加しているのですが、基本的には、実際にあった臨床ケースを学生さん同士でカンファレンスしてもらっています。ですが、これでは「**医学生の視点**」からしか**見ることができない**という欠点があるため、**看護師さんの視点と医師の視点の違いを実感してもらい、しかも両者がいっしょにカンファレンスで話し合うことが、臨床現場で日々生じる倫理問題に対処するにあたって、いかに重要であるか、**ということを体験してもらえないだろうか・・・、とっておりましたところ、**ベッドサイド・カフェ9号店「潤和会記念病院」(5月14日開催)、カフェ3号店「国立宮崎病院」(6月14日開催)、カフェ13号店「准看護学校専任教員研修」(6月17日開催)**以上3箇所のご協力が得られ、念願叶って実現致しました(^ ^) /本当にありがとうございましたm(_ _)m
以下、ECC コラボレーションに参加してくれた6年生と看護師さん達の感想の一部を紹介させていただきます。

9号店「潤和会記念病院」(5月14日)参加学生感想

・潤和会記念病院でのケースカンファレンス参加は、とても勉強になった。現役バリバリの看護師さんの意見は、自分とは違った視点のものが多く、とても参考になった。特にケースの中に出てくる医師の言動に対しては厳しい指摘があり、肩身の狭い思いをした。チーム医療の大切さを何度も強調して下さいましたが、同時に現場ではそれがとても難しいと話されていたし、一緒に潤和会病院へ行った看護学科3年生の学生さんが、「**せっかく同じ学部にいるのに、カリキュラムでの医学科と看護学科の接点が少ないのは残念**」と言っていたけど、全く同感だ。**学生の頃からチーム医療の大切さや、医師と看護師さんとの話し合いの重要性を、こんな風に肌で学ぶことが出来たら、何年か先には、今よりもさらに、患者さんの気持ちに寄り添った医療が提供できる、と感じた。**

・ECCを何度もやってみて、**医師の視点、看護師の視点、患者さんの視点、患者さんの家族の視点を合わせていけば、本当のチーム医療ができるのでは、**と思いました。臨床倫理クラークシップは、選択ではなく、5、6年生の時期に学生全員が学ぶべき内容だと思います。また、できれば**看護学科の学生さんともいっしょにカンファレンスできる機会があればいいのに、**と思います。



写真は、潤和会記念病院での【ベッドサイド・カフェ】と臨床倫理クリクラECCコラボレーションの様子。

3号店「国立宮崎病院」(6月14日開催)参加者感想

・医学生として医学を学んでいると、講義や実習でも、とかく医学知識ばかりが中心になってしまう。しかし一方で、医者には足りない(時間的・能力的にも)患者さんの関わりや、たとえ一見すると些細なことでも、患者さんの様子の変化に気付く**看護師さんの存在は、きわめて重要**だということをあらためて考えさせられた。医師も看護師も、患者さんを治療していく、という共通の目標に向かって、協力していくことの重要性を強く感じました。

・川南で看護師さんたちといっしょにカンファレンスが出来たのは、とても良い経験になりました。同じ症例でも、医師と看護師の視点の違い、アプローチの相違を実感しました。しかし、**この違いは、むしろ大切な財産**だと思うので、**様々な職種が、様々な視点から一つの症例に対応することが大切**だと思うし、**それらの情報を互いに共有し合うことが、もっと大事なこと**だと感じました。できれば来年以降の臨床倫理クリニック ECC では、看護学科の4年生もいっしょに参加できるといいと思いました。



写真は、国立宮崎病院での【ベッドサイド・カフェ】と臨床倫理クリニック ECC コラボレーションの様子

13号店「准看護学校専任教員研修」参加看護教員感想

・最近のニュースの中で、医師がイレウスの患児を放置して死亡させてしまったケースが報道されていました。このニュースを耳にして、医師のモラル、医の倫理はいったいどうなっているの?と考えさせられました。今日、医大の学生さん3名の皆さんといっしょにカンファレンスをする場を持つことができ、**こうした医学生さんたちが多く育っていけば、あのような事故をなくすることができる**と思いました。3名の医学生の皆さん、**素敵なドクターになられることを期待しています。**

・患者さんにとって一番良いこと・・・と言いつつも、自分が看護師なので、ナースの価値観だけで考えていたことに**気付かされました**。今日のECCに医学生さんが入ってくださったことで、医師の立場からの意見が聞けて、やっぱり違うな、と思った。医師や看護師をはじめ、様々な職種がいっしょになって、患者さんのことを話し合う場を持つことが、とても重要なのだ、ということあらためて痛感した。**今日出席された3名の医学生さんは、頼もしい**と思いました。

【ベッド・サイド・カフェ】のお知らせ

昨年8月以来、各地でOPENさせて頂いております【ベッド・サイド・カフェ】出張オープンですが、皆さまのお陰で、2003年7月上旬現在、**15号店(全26回開催)**までの開店が決まっております。オープン準備にご協力くださった多くの皆さま、本当にありがとうございます。今後のオープン予定を以下、一覧表にさせて頂きますね。

= お店の号数は、オープン依頼を頂いた順番になっています。 =

2003年7月12日

10号店(第1回): **国立熊本病院** (看護卒後研修)

2003年7月26日

15号店(第1回): **都城地区 & 市民の森病院有志**
合同OPEN(【喫茶 りんり】本店)

2003年7月31日

14号店(第1回): **県立こども療育センター**

2004年2月17日

6号店(第4回): **宮崎市郡医師会病院** (院内研修)

倫理相談のお知らせ エシックス・コンサルテーション

【喫茶 りんり】では、「倫理相談」も請け賜っております。「患者さんもご家族も、これ以上、積極的な治療はして欲しくない」と頑なおっしゃるのだけれど、どう対処すればいいの? 重度障害新生児の治療について、ご両親と意見が一致しないのだけれど、どうすれば・・・? 等など、困難な倫理的ジレンマで悩んでおられるときは、どうぞお気軽にお電話ください^^)。電子メールでも受け付けております。お電話や電子メールでは十分お話できない場合など、必要に応じて、病棟まで直接伺いもさせて頂いております。また【喫茶 りんり】本店へ直接お越し頂いても結構です。マスターが珈琲(インスタントですが・・・^^;)でおもてなしさせて頂きます、と言っておりますので^^) なお、「倫理相談」のお代は頂いておりませんので、ご心配なく(珈琲代は頂きますが)。お電話・Eメールは下記まで。

<<発行責任者>>

宮崎医科大学医学部 哲学・倫理学研究室 講師

【喫茶 りんり】マスター 板井 孝彦 郎

TEL&FAX 0985(85)1780

E-mail: koichiro@post.miyazaki-med.ac.jp

ホームページ出来ました!

<http://www.miyazaki-med.ac.jp/philosophy/index.html>

